

## 印西大師 番外 吉田・河岸ノ台※

- 1 名称 (No.153/273)〔手引鏡：河岸の台〕〔資料館：かしの台〕
- 2 場所 印西市吉田1691付近 向山共同墓地  
岩戸・広済寺から道程約2890m  
吉田・萬福寺から道程約175m  
GPS座標 35.76552304093892, 140.15146004925415
- 3 由緒
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。その左下に両手を合わせている小さい石像が1体あり。御大師様か？
- 5 境内 大師堂のまわりは向山共同墓地
- 6 写真 (2023.10.16撮影)



大師堂



御大師様



六地藏



薬師堂(左)と大師堂(右)



お堂の中・御大師様？



お堂の中

## 7 情報

## (1) 向山共同墓地「記念碑」

向山共同墓地は、当吉田区有史以来の聖域である。しかし近年・永年にわたる使用による過密化のため、自家の外柵工事や通路の設営等に困難をきたしていた。また、往時に比しての今日の生活構造の変化や、将来の理想的な墓地の使用形態を考慮し、何らかの墓地整備が必要とされていた。まず昭和五十三年に墓地外周の土留めが、続いて昭和五十九年には薬師堂の新築が、区会の尽力で行なわれた。次に昭和六十三年三月、区会に墓地内の全面的な改修工事計画案が提出された。そして、区会にてこの計画案を協議したが、同年九月、墓地使用者全員の賛同をもって、「墓地改修委員会」が発足した。その後、弘法大師堂の再築、六地藏菩薩の建立、墓地入り口の改装等を計画に追加し、委員会がその遂行に当たった。平成二年二月、各位の全面的協力によって改修工事が無事終了した。ここに各家先祖代々各霊の安らかなる永眠と各家内の安穏を祈願し記念碑を建立するものである。平成二年三月吉日 墓地改修委員会 (以上碑文より)

## (2) 東堂、小堂及び河岸ノ台の御大師様は万福寺へ移されたか

手引鏡には、第72番萬福寺と第34番慈眼寺のほか、東堂、小堂、河岸ノ台の番外札所が出ているが、2023年8月に萬福寺の御住職（早川様）にお伺いしたところ、東堂はかつて東にある小さな集落にあり、また小堂は個人で管理されていたが、河岸ノ台も含め、現在は萬福寺の大師堂に祀られている。このため大師堂には第72番と、東堂、小堂、河岸ノ台を合わせ計4体の御大師様がおられる、とのお話でした。

東堂と小堂(こどう)については、周辺を探してもお堂が見つからないので、萬福寺へ移されたかもしれないと推測していましたが、河岸ノ台については向山共同墓地に大師堂があるのでお話と合致しないところがあります。ただし、向山共同墓地の記念碑の碑文には、昭和の終わりから平成の初め頃に弘法大師堂を「再築」したとの記述があります。傷んでいた大師堂を新しくしたのではなく、かつてあった大師堂を復活させたという意味かもしれません。このあたりの事情をもう少し聞いておけば良かったと思います。

なお、萬福寺の御住職は、印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」の作成に携ったひとりであるとのことでした。

## (3) 河岸ノ台の推測

手引鏡による札所間の距離は、吉田・東堂→4丁13間(460m)→慈眼寺→21間(38m)→小堂→半丁17間(85m)→万福寺→1丁20間(145m)→河岸ノ台→13丁半23間(1,515m)→松崎・明源寺となっている。河岸ノ台は万福寺から145mのところ、松崎方面へ向かう途中にある。向山共同墓地は、Googleマップで距離を測ると万福寺から最短約150mのところにあるので、これに合致していると思われる。

また、向山共同墓地から南へ坂を下った先には、かつて吉田と対岸の保品を結ぶ「吉田(保品)渡し」があったことから、「河岸」という名称も違和感がない。なお、「向山」という名称は、共同墓地周辺の字名である。

2024.05一部修正